

1. 目的

- ①生垣の再生。
- ②挿し木の技術の向上。
- ③残したい植物の繁殖を試みる。

2. 内容

- ①アベリアの生垣で枯れこんでいる部分の補修のために新しく挿し木した植物を定植し、美しい景観を保つ。
- ②様々な樹木の挿し木を試み、それぞれに応じた方法を確立し、技術の向上を図る。
- ③年数が経ち寿命や病気、食害で枯れてしまいそうな樹木から挿し穂を作り、新たな苗木を作る。

3. まとめ

挿し木において、一部成果が生まれなかった樹木もあったが、来年の課題を見つけることができた。作成できた苗木は養生期間を経て生垣に移植する予定である。

枯れてしまったアベリアの生垣



挿し木直後のアベリア



発根したアベリア



挿し木が難しいロウバイ

